



ゆくて遥かに

平成 30 年 4 月 17 日 (火)

第 3 号

長野県松本深志高等学校長

歌の練習 (4月6日~10日)

和やかな雰囲気の対面式から一転、叱声、罵声、怒声の飛び交う歌の練習です。深志生になるための重要な通過儀礼の一つですが、あんなふうに怒られた経験をほとんどの1年生は持っていないのでしょうか。初日4月6日の5時限終了後、練習会場に歩いて向かう一年生いきなり一喝、

早く移動するように応管に大きな声で怒鳴られて、追い立てられるように集合。どの顔にも並々ならぬ緊張感が走っています。以前は一週間(一説では二週間の時もあったとか)行っていた歌の練習も、その時代に合った形で4日間となり、昨年度からは年度初めの日程の都合上3日間に短縮されています。この間に覚える曲は20曲ですが、さすがに放課後の2時間程度の練習だけでは覚えられず、期間



2, 3 日目は1棟屋上で行うことができました



朝練は教室で

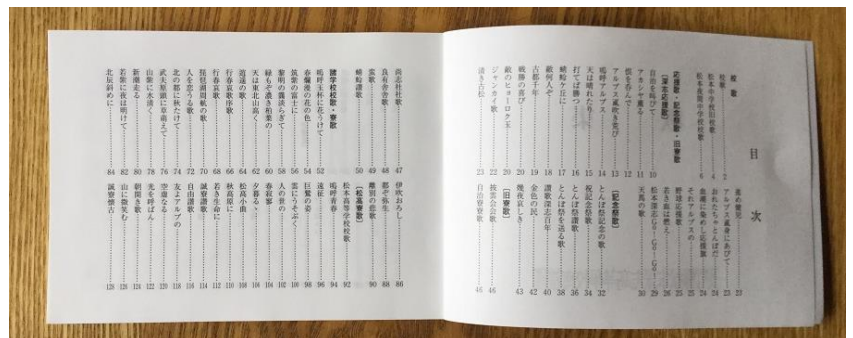


歌集の厚さは約1センチ

中は朝8時頃から各クラスに1人ずつ指導員と呼ばれる応管の委員がついて「歌唱指導」をしています。(こちらは強制ではなく、指導も優しめ。)

最初は小さな声しか出なかった集団でしたが、応管の熱い熱い指導を受けるうちに、だんだんと腹の底から声が出るようになり、最終日の自信を持って堂々と校歌を歌い上げる姿は圧巻でした。「自分の殻を破れ」と言われ続けた3日間、新たな気持ちで、高校生としての確かな一歩を踏み出すきっかけになったことを期待します。

収められている曲は200曲余(全部は歌いません)



応管決め、そして縮小とんぼ祭へ(4月11日~14日)

本校に於いては、生徒会と応援団は従属関係のない、互いに独立した機関である。従ってこれらに属する我々生徒は、各人が生徒会員であると同時に応援団員であるという二面性を持つことになる。

この文言は生徒手帳に書かれている本校応援団の説明です。生徒全員が応援団員で、それを統括するのが応援団管理委員会の役割。この仕組みをつくったのは深志第2代校長の岡田甫先生で、以来、その伝統が守られてきています。一年生の新たな応援団管理委員を決めるのはとても重要な課題で、部活動に入る前に、すべてに先駆けて話し合われます。「深志高校の良心」



応管委員が決まると「自治を叫びて」の歌声が

とも言われる応管の仕事は多岐に渡っていて、伝統を一手に引き受けている面もあります。やりがいは充分ですが、部活動との両立が難しく、毎年決定までに難航するクラスが出るのもやむを得ないことです。今年も歌練翌日から二日間の放課後を使って慎重に話し合わせ、三日目の朝までに、すべてのクラスで決まりました。（伝統はただ守るのではなく、新たな創造により再生する。この意識を持って、過重な負担とならないように祈ります。）

そして翌日から縮小とんぼ祭、一年生にクラブ紹介を行うことを主目的とした生徒会行事です。写真でその様子の一部をお伝えします。



写真、左上から右に、空手道部、吹奏楽部、軽音楽部。左中から右に、書道部、山岳部、棋道部。左下から右に、地学会、数学研究会、ダブルダッチ部。

今週の予定 (B 1)

日	曜日	行事等	その他
16	月	健康診断 (3年)	
17	火	健康診断 (2年)	
18	水	健康診断 (1年)	鯉幟目入れ式
19	木		県立校長会
20	金		校長会春季総会
21	土	(県職員採用試験)	
22	日	(県職員採用試験)	同窓会安曇野支部総会
23	月	(A 2)	